

平成25年度 いいたてホーム医務室事業報告書

1. 年間目標について

必要とされる医療行為の充実を図り、終末期においても施設生活が安心して送れるよう、多職種間との連携・協働体制を深めて行くことについては、介護職員や多職種間の理解と協力が重要であり、共に目標を高くもち、信頼と様々な情報等を共有することで、概ね成し得てきたと考えます。

2. 業務計画について

1) 利用者及び職員の健康管理

<p>健康管理について (入居者)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 健康診断 1 回目 平成 25 年 7 月 26 日 平均年齢 85, 3 歳 最高年齢 99 歳 最低年齢 59 歳を含む 69 名受診 (検診率 100%) 内、何らかの所見を有する入居者は 68 名。</li> <li>➤ 健康診断 2 回目 平成 26 年 2 月 24 日 平均年齢 85,8 歳 最高年齢 99 歳 最低年齢 59 歳を含む 59 名受診 (検診率 100%) 内、 有所見者数 58 名</li> <li>➤ 要精密検査を指摘され、緊急を要するような検査結果は 3 ケースあった が、いずれも通院加療中であった為かかりつけ医で経過観察とした。</li> <li>➤ 感染症について、インフルエンザ及び食中毒の感染者ゼロであったこと。 懸念された感染性胃腸炎に至っても罹患者なしであった。</li> </ul>
<p>職員の体調管理に ついて</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 介護職員の平均年齢が 45 歳を超えていることもあり、柔軟性と筋力の低下が目立ち、体調不良を訴える職員が目立っている。</li> <li>➤ 村外通勤を余儀なくされていること、かかりつけ医が固定しにくいことなどがストレスの要因になっている。</li> <li>➤ インフルエンザ罹患者は 2 名 (各々別時期)</li> <li>➤ 腰痛対策については、予防法と介護技術の修得及び、福祉用具の購入 (個人購入も含め) ・活用に努めた。</li> </ul>
<p>健康診断について (職員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 検診率 100% (年 2 回) 施設外での健診を受けた職員については結果の写しを医務室管理とした。</li> <li>➤ 3 人に一人は何らかの慢性疾患があり内服薬の処方を受けている。</li> <li>➤ 腰痛検査 (年 2 回) については、放射線量を懸念し個人の判断に一任、希望に応じ整形外科医による診察と問診のみとした。“総合的に心配なしと判断”という結果が殆どであった。</li> <li>➤ 職員会議定例会に於いて、時節に合った内容での勉強会を実施した。自身の体調管理については個別に相談を受けるなど、常に健康を意識できるような体制作りに努めた。</li> <li>➤ 『昼食後のストレッチ運動』については、身体の柔軟性とリラックス効果だけでなく、職員間のコミュニケーションを図ると云う素晴らしい副産物をももたらす結果となった。次年度も継続し、その輪を拡げていきたい。</li> </ul>
<p>健康教育について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 救急車搬送は 4 件、臨時受診と定期通院の割合は半々であった。</li> <li>➤ 介護と看護間で情報を共有することで、比較的速やかな対応ができた。 (手遅れという状態は避けられた)</li> <li>➤ 医療知識の周知・理解を図ることで疾患や事故の予防ができた。</li> </ul>
<p>受診について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 重症度の高いご利用者についても主治医の指示の下、ご家族への連絡を密にするなど信頼関係を築くことができた。</li> <li>➤ 終末期の判断については、主治医の協力及びあづま脳神経外科病院と連携を図ることでスムーズに対応できた。</li> </ul>

## 2) 感染症対策

<p>感染症対策委員会について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 医務室が中心となり、時節にあった感染症についての情報を周知し、感染症予防・蔓延に努めた。</li> <li>➤ ノロウイルスへの対策・対応としての勉強会を開催。発生時の対応キットを購入し各家に配置した。実際開封し、使用したケースは1回のみ。</li> </ul>
<p>インフルエンザワクチン接種</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 入居者・職員に接種。</li> <li>➤ 職員2名がインフルエンザ罹患者となったが、拡大することなく終息した。</li> <li>➤ 熱発者については各棟数名大事に至ることなく経過した。</li> </ul>

## 3) 褥瘡対策

<p>皮膚トラブルの予防</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 早期発見の重要性を周知することで、皮膚のトラブルは殆ど無い。</li> <li>➤ 皮膚の状態を健やかにするため、セラミド入り乳液である『キュレル』及び状態に合わせてベビーオイルを活用した。</li> <li>➤ 栄養の大事さ、経口摂取については適宜ケア会議などで話し合い、関心を深めていった。</li> <li>➤ 病院から褥瘡形成され退院となった方について、状態が一進一退しているケースが2例となり現在に至る。</li> <li>➤ 看護職間で検討し、保護剤や被覆材の選択についても慎重に取り扱うものとした。</li> </ul>
------------------	--

## 4) 終末ケア

<p>看取りについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 「慣れ親しんだホームで最期を」と希望する入居者やご家族が多く、9名の方が施設（自分の居室）で永眠されました。病院に移ってから亡くなった方は5名でした。</li> <li>➤ 最期に一人で逝かせたくないという職員の想いがあり、居室にソファベッドを配置するなどしてご家族に泊まっていただきました。できるだけ悔いが残らないように配慮することで信頼関係を継続できました。</li> <li>➤ 終末期を考慮し、厨房・介護・看護の全スタッフで関わる事ができた。</li> <li>➤ 定期診療に加え、深夜早朝にもかかわらず来所し、最期の確認と家族への説明をしてくれた医師に感謝します。</li> </ul>
----------------	---

【入院状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
南相馬市立								1	1				2
延日数								9	13				22
小野田病院	1												1
延日数	4												4
大町病院	1	1	1	2	3			2	2	1	1	2	16
延日数	8	4	28	18	23			28	23	24	5	20	181
あづま脳神経					3	4	3	1	2		2	2	17
延日数					28	77	38	16	17		24	49	249
川俣済生会	1						1						2
延日数	10						5						15
<b>実人数 計</b>	<b>3</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>2</b>	<b>6</b>	<b>4</b>	<b>4</b>	<b>4</b>	<b>5</b>	<b>1</b>	<b>3</b>	<b>4</b>	<b>38</b>
<b>延日数 計</b>	<b>22</b>	<b>4</b>	<b>28</b>	<b>18</b>	<b>5</b>	<b>77</b>	<b>43</b>	<b>53</b>	<b>53</b>	<b>24</b>	<b>29</b>	<b>69</b>	<b>471</b>
					1								

【通院状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
南相馬市立	2	2	3	1		2			1	1		1	13
小野田病院	1								1				2
大町病院	2	2	2	2	3	1	1	1	8	1	3		26
あづま脳神経				1	1	4	2	1		2	1	2	13
川俣済生会病院	1	3	2	1	1	1	3						12
大原総合病院							1	1		1			3
第一病院	2			3	1			1	3	1			11
つじ歯科医院							2						2
福島済生会病院	1											1	2
もり皮膚科												2	2
福島日赤病院											1	1	2
<b>実人数 計</b>	<b>9</b>	<b>7</b>	<b>7</b>	<b>8</b>	<b>6</b>	<b>8</b>	<b>9</b>	<b>4</b>	<b>13</b>	<b>6</b>	<b>5</b>	<b>7</b>	<b>89</b>